

コロナ後の回復で「ロボット工学技能」への高い需要があると IFR が報告

- 韓国、シンガポール、ドイツが先頭を走る

独フランクフルト – 2022 年までに、ほぼ 400 万台の産業用ロボットの稼働可能在庫が世界中の工場で見込まれています。これらのロボットは、生産を自動化してコロナ後の経済を加速する上で不可欠な役割を果たすでしょう。同時に、ロボットは熟練労働者の需要を高めます。国際ロボット連盟は、教育システムがこの需要に効果的に適応する必要があると述べています。

国際ロボット連盟のミルトン・ゲリー代表は、次のように述べています。「世界中の政府や企業は今や、ロボットやインテリジェント自動化システムを扱うための適切な技能を提供することに集中する必要があります。これは、これらの技術が提供する機会を最大限に活用するために重要です。コロナ後の回復により、ロボット工学の導入がさらに加速することになります。従業員がこの移行をより自動化が進んだ経済をもたらすものにできるよう支援する上で、政策と戦略が重要です。」

## EIU 指数

エコノミスト・インテリジェンス・ユニット(EIU)が公表した「自動化準備指数」によれば、自動化経済の課題に対処するための成熟した教育政策を既に確立している国はわずか 4 カ国です。韓国がカテゴリーリーダーで、エストニア、シンガポール、ドイツが続きます。日本、米国、フランスのような国は先進国で、中国は新興国にランク付けされています。EIU は政府が考慮すべき事項をまとめており、それは研究奨励、マルチステークホルダーの対話、国際的な知識共有です。

## 教育

ロボットサプライヤーは、実践指向の研修で労働者の教育をサポートしています。IFR 事務局長のスザンヌ・ビーラー博士は、「既存の労働者の再訓練は、短期的な方策にすぎません。私たちはもっと早く既に対策を開始している必要があります。諸学校や学部の教育カリキュラムを将来の労働者に対する業界の需要に合わせてなければなりません。技術やデジタルの技能への需要は高まっていますが、問題解決や批判的思考のような認知技能も同様に重要です。経済は自動化を受け入れ、利益を上げるために必要な技能を構築する必要があります。そうしなければ競争で不利になります」と述べています。

## IFR エグゼクティブ円卓会議 - オートマティカ(ミュンヘン、2020年12月)

ミュンヘンで開催される世界有数のスマートオートメーション／ロボット工学見本市「オートマティカ」で、12月9日のIFR エグゼクティブ円卓会議にて、「次世代の労働力 - ロボット工学のためのスキルアップ」というトピックについて議論します。

プレスリリースのフルテキスト版はこちらをご覧ください：<https://ifr.org/ifr-press-releases/>

### IFR について

国際ロボット連盟：[www.ifr.org](http://www.ifr.org)

本記者発表文の公式バージョンはオリジナル言語版です。翻訳言語版は、読者の便宜を図る目的で提供されたものであり、法的効力を持ちません。翻訳言語版を資料としてご利用になる際には、法的効力を有する唯一のバージョンであるオリジナル言語版と照らし合わせて頂くようお願い致します。

### CONTACT:

#### Press Office

Carsten Heer

phone +49 (0) 40 822 44 284

E-Mail: [press@ifr.org](mailto:press@ifr.org)